

がん化学療法レジメン委員会の現状と未来

高木 賢一

キーワード：化学療法レジメンの審査と承認、管理と運用；ガイドライン；抗がん剤プロトコールシステム

(雲南市立病院医学雑誌 2019; 16(1): 177-178)

はじめに

がん化学療法レジメン委員会は、新本館棟完成移転後の平成30年4月に新たに設置された委員会である。委員会は医師（外科、泌尿器科、内科）3名、看護師（外来勤務）1名、事務職（情報管理課）1名、薬剤師2名の合計7名の委員で構成される。

委員会活動の実際

化学療法レジメンの審査と承認、管理と運用、関連する必要事項について協議している。定例会を年1回行うほか、新規にレジメンが申請された場合や既存レジメンに修正が必要な場合などに、臨時召集され審議している。エビデンス、薬品の投与量、投与方法、休薬期間や配合変化などの情報を収集し、ガイドラインや既存レジメンを参考にしながら、適正な輸液や制吐剤などを組み合わせて構築したレジメンを審査している。

承認されたレジメンのマスタ登録・管理は薬剤科が行い、運用に関しては電子カルテのバージョンアップにより追加された機能である（図1）、抗がん剤プロトコールシステムを用いている。このシステムは通常の注射処方箋オーダーから独立したがん化学療法専用のオーダーシステムのため、レジメンの一元管理を容易に

することができるようになった。また投与量の自動計算による過量投与防止機能や休薬期間に対するアラート機能により、以前よりがん薬物療法を実施するにあたって安全性が向上していると考えられる。

これまでに登録されたレジメンは43種類であり、抗がん剤システムを利用して昨年度1年間で28人、177件に投与された。

今後の展望

将来的にはさらに新規薬剤が開発・販売され、新しいレジメンが開発されていくことが予想される。当委員会では今後も新規申請されるレジメンの必要性和妥当性をエビデンスに基づいて精査し、安全性と有効性を確保したがん薬物治療に寄与したいと考える。

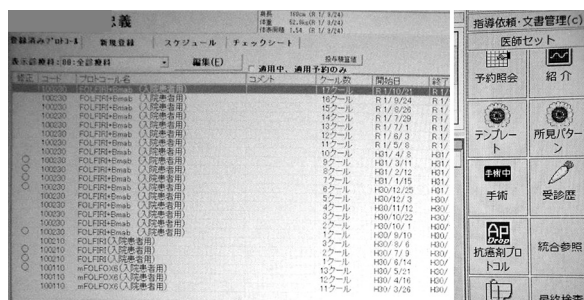


図1 電子カルテ上の抗がん剤プロトコール画面

Present status and future perspective of the committee
for cancer chemotherapy regimen registration in Unnan City Hospital.

Kenichi Takaki

Committee for cancer chemotherapy regimen registration, Department of pharmacy, Unnan City Hospital
Correspondence: Kenichi Takaki, Department of pharmacy, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane
699-1221, JAPAN]
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501
E-mail: unkusuri@hotaru.yoitoko.jp